

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 17-0037

PDCA	事務事業名	地域自立生活支援事業(高齢者配食サービス事業)	部課等名	福祉部 高齢介護課 高齢者福祉担当	担当	榊原健		
					内線等	376		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章: 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち						
		節: 第2節 地域福祉の推進						
		基本施策: 2. 高齢者福祉						
		単位施策: (3) 高齢者の日常生活の支援						
	根拠法令等	—						
	対象・目的	食事の確保が困難なひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の安否確認と栄養改善を図る。						
	目的を達成するための手段・活動内容	配食サービス業者5社と委託契約し、昼食の宅配時に安否確認を行う。また、委託業者から異変等の情報収集を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		①委託業者数	6	5	5	業者		
		②配食サービス月平均利用者数	89	92	99	人		
		事業費	4,920	5,103	5,508	千円		
		人件費	1,874	1,863	1,643	千円		
		総事業費	6,794	6,966	7,151	千円		
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
	①配食サービス利用者1人当たりのコスト	76,338	75,240	72,232	円			
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		①対象となる高齢者の栄養改善が図られ適切な安否確認を行うことができた割合	実績値	100.0	100.0	100.0	%	
			目標値	100.0	100.0	100.0		
			実績値					
目標値								
実績値								
目標値								
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地		ない
	事業の評価・課題	B						
		新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛が呼びかけられた結果、配食サービスの需要が増加し、ひとり暮らし高齢者等の安否確認と食生活の維持につながった。高齢者や家族が安心して暮らせる体制を推し進めることができた。						
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持					
市報への掲載等により事業周知を行い、コロナ禍にあっても高齢者等の安否の確認と食生活の維持が広く行われるよう努める。また、社会情勢を受けて、需要が増加しているが、真にサービスを必要とする高齢者等が利用する事業となるよう適切なアセスメントを行う。								
令和3年度の目標		成果指標	目標値			単位		
		①対象となる高齢者の栄養改善が図られ適切な安否確認を行うことができた割合	100			%		